

＜柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		臨床柔整学Ⅴ			学年	2	
講師名		阿部 求		単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
頭部・体幹を中心とした各部損傷の発生原因・整復法、固定法、指導管理方法等の知識や技術を学び、現場で対応できるようになる。 ※実務経験のある教員等による授業科目となる							
講 義 内 容	1	頸部の脱臼・骨折					
	2	頸部の脱臼・骨折					
	3	頸部の脱臼・骨折					
	4	頸部の疾患					
	5	頸部の疾患					
	6	頸部の疾患					
	7	頸部の疾患					
	8	脊椎の脱臼・骨折					
	9	脊椎の脱臼・骨折					
	10	胸部の疾患					
	11	胸部の疾患					
	12	胸部の疾患					
	13	腰部の疾患					
	14	腰部の疾患					
	15	今までの総復習					
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法							
評価基準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
備考							

＜柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		柔整実技Ⅰ			学年	2
講師名		上野 天	単位数	1	コマ数	23
授業概要、到達目標						
患者の移動、問診、触診、徒手検査、整復、固定の他、外傷患者に対しての対応ができるようになる。 ※実務経験のある教員等による授業科目となる						
講 義 内 容	1	オリエンテーション。認定実技の流れ説明				
	2	腱板損傷評価法				
	3	上腕二頭筋長頭腱損傷評価法				
	4	ハムストリングス損傷評価法				
	5	大腿四頭筋打撲評価法				
	6	膝関節側副靱帯損傷評価法				
	7	膝関節十字靱帯損傷評価法				
	8	膝関節半月板損傷評価法				
	9	下腿三頭筋損傷評価法				
	10	足関節外側靱帯損傷評価法				
	11	アキレス腱断裂評価法				
	12	アキレス腱断裂　クラメル固定法				
	13	足関節外側靱帯損傷　局所副子固定法				
	14	膝関節内側側副靱帯損傷　Xサポートテープ固定法				
	15	足関節外側靱帯損傷　バスケットウィーブテープ固定法				
	16	足関節外側側副靱帯損傷　フィギュアエイト・ヒールロック固定法				
	17	問診、誘導、評価（腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、ハムストリングス損傷）				
	18	問診、誘導、評価（膝関節半月板・側副靱帯・十字靱帯損傷）				
	19	問診、誘導、評価（大腿四頭筋打撲、下腿三頭筋損傷、足関節外側靱帯損傷）				
	20	問診、誘導、固定（足関節外側側副靱帯損傷固定）				
	21	問診、誘導、固定（アキレス腱断裂固定）				
	22	問診、誘導、固定（膝関節側副靱帯損傷固定）				
	23	評価～固定全般の復習				
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
評価方法						
評 価 基 準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

＜柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		柔整実技Ⅱ			学年	2	
講師名		上野 天・石岡 茂樹		単位数	2	コマ数	45
授業概要、到達目標							
患者の移動、問診、触診、徒手検査、整復、固定の他、外傷患者に対しての対応ができるようになる。 ※実務経験のある教員等による授業科目となる							
講 義 内 容	1	オリエンテーション、認定実技について					
	2	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）					
	3	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）					
	4	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）					
	5	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）					
	6	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）					
	7	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）					
	8	コーレス骨折の背臥位による屈曲整復法（診療ベッド）					
	9	コーレス骨折の背臥位による屈曲整復法（診療ベッド）					
	10	コーレス骨折の坐位による屈曲整復法（椅子）					
	11	コーレス骨折の坐位による屈曲整復法（椅子）					
	12	コーレス骨折の背臥位による牽引直圧整復法（診療ベッド）					
	13	コーレス骨折の背臥位による牽引直圧整復法（診療ベッド）					
	14	コーレス骨折の坐位による牽引直圧整復法（椅子）					
	15	コーレス骨折の坐位による牽引直圧整復法（椅子）					
	16	肩鎖関節上方脱臼の坐位による整復（診療ベッド）					
	17	肩鎖関節上方脱臼の坐位による整復（診療ベッド）					
	18	肩関節前方烏口下脱臼の背臥位による整復（診療ベッド）					
	19	肩関節前方烏口下脱臼の背臥位による整復（診療ベッド）					
	20	肘関節後方脱臼の背臥位による整復（診療ベッド）					
	21	肘関節後方脱臼の背臥位による整復（診療ベッド）					
	22	整復法総復習					
	23	定型的鎖骨骨折 固定					
	24	定型的鎖骨骨折 固定					
	25	上腕骨骨幹部骨折 固定					
	26	上腕骨骨幹部骨折 固定					
	27	コーレス骨折固定					
	28	コーレス骨折固定					
	29	肩鎖関節上方脱臼固定					
	30	肩鎖関節上方脱臼固定					
評価方法							
評 価 基 準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
備考							

単位認定

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		柔整実技Ⅱ		学年	2
講師名		単位数	2	コマ数	45
授業概要、到達目標					
患者の移動、問診、触診、徒手検査、整復、固定の他、外傷患者に対しての対応ができるようになる。					
講 義 内 容	1	肩関節前方脱臼固定			
	2	肩関節前方脱臼固定			
	3	肘関節後方脱臼固定			
	4	肘関節後方脱臼固定			
	5	第5指中手骨頸部骨折固定			
	6	第5指中手骨頸部骨折固定			
	7	下腿骨骨幹部骨折固定			
	8	下腿骨骨幹部骨折固定			
	9	肋骨骨折固定			
	10	肋骨骨折固定			
	11	手第2指PIP関節背側脱臼固定			
	12	手第2指PIP関節背側脱臼固定			
	13	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習			
	14	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習			
	15	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習			
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
	21				
	22				
	23				
	24				
	25				
	26				
	27				
	28				
	29				
	30				
評価方法					
評 価 基 準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

＜柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		総合柔整学Ⅰ			学年	3	
講師名		五十嵐 未奈		単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
各種損傷の原因・整復法等の知識や技術を学び、現場で対応できるようになる。 ※実務経験のある教員等による授業科目となる							
講 義 内 容	1	頭部外傷（下顎損傷における併発症）					
	2	頭部外傷（下顎損傷における合併症）					
	3	頭部外傷（外傷と脳損傷の鑑別）					
	4	頭部外傷（外傷と脳損傷の鑑別）					
	5	頭部外傷（外傷と脳損傷の鑑別）					
	6	頭部外傷（眼窩付近の損傷）					
	7	胸部外傷（鎖骨骨折から判断すべき合併症）					
	8	胸部外傷（鎖骨骨折から判断すべき合併症）					
	9	胸部外傷（鎖骨骨折から判断すべき合併症）					
	10	胸部外傷（肋骨骨折から判断すべき合併症）					
	11	胸部外傷（肋骨骨折から判断すべき合併症）					
	12	胸部外傷（肋骨骨折から判断すべき合併症）					
	13	胸部外傷（胸骨骨折から判断すべき合併症）					
	14	体幹損傷（脊椎損傷から判断すべき合併症）					
	15	体幹損傷（脊椎損傷から判断すべき合併症）					
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法							
評価基準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
備考							

＜柔道整復師学科 シラバス＞

科目名	総合柔整学Ⅲ			学年	3
講師名	瀧ヶ平 隆一・五十嵐 未奈	単位数	3	コマ数	45

授業概要、到達目標

骨折、脱臼、軟部組織損傷における、発生機序、治療方法を説明できる様になる。※物理療法の取り扱いを含む
※実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	物理療法の種類と役割（物理療法機器等の取り扱い）
	2	エコーを用いての軟部組織確認の注意点と使用方法（物理療法機器等の取り扱い）
	3	エコーを用いての軟部組織確認演習（物理療法機器等の取り扱い）
	4	エコーを用いての軟部組織確認演習（物理療法機器等の取り扱い）
	5	電器療法を行う機器や役割、禁忌事項（物理療法機器等の取り扱い）
	6	寒冷療法を行う機器や役割、禁忌事項（物理療法機器等の取り扱い）
	7	光線療法を行う機器や役割、禁忌事項（物理療法機器等の取り扱い）
	8	温熱療法を行う機器や役割、禁忌事項（物理療法機器等の取り扱い）
	9	上肢の骨折（鎖骨、肩甲骨）
	10	上肢の骨折（上腕骨、前腕骨）
	11	上肢の骨折（手根骨、指骨）
	12	上肢の脱臼（肩関節）
	13	上肢の脱臼（肘関節）
	14	上肢の脱臼（指節関節）
	15	上肢の軟損（肩関節周囲）
	16	上肢の軟損（肘関節周囲）
	17	上肢の軟損（手関節周囲）
	18	上肢の損傷における血管損傷
	19	上肢の損傷における血管損傷
	20	上肢の損傷における神経損傷
	21	上肢の骨折における神経損傷
	22	上肢の損傷のまとめ
	23	下肢の骨折（大腿骨）
	24	下肢の骨折（下腿骨）
	25	下肢の骨折（足根骨）
	26	下肢の脱臼（股関節）
	27	下肢の脱臼（膝関節、膝蓋骨）
	28	下肢の軟損（大腿部）
	29	下肢の軟損（下腿部）
	30	下肢の軟損（下腿部）

評価方法			
評価基準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

単位認定

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		総合柔整学Ⅲ			学年	3	
講師名				単位数	3	コマ数	45
授業概要、到達目標							
骨折、脱臼、軟部組織損傷における、発生機序、治療方法を説明できるようになる。※物理療法の取り扱いを含む							
講 義 内 容	31	下肢の損傷における血管損傷					
	32	下肢の損傷における血管損傷					
	33	下肢の損傷における神経損傷					
	34	下肢の損傷における神経損傷					
	35	下肢の損傷のまとめ					
	36	脊椎部の骨折					
	37	脊椎部の脱臼					
	38	脊椎外傷のまとめ					
	39	頭部、体幹の軟損組織損傷					
	40	頭部、体幹の損傷における血管損傷					
	41	頭部、体幹の損傷における神経損傷					
	42	臨床実施問題					
	43	臨床実施問題					
	44	臨床実施問題					
	45	今までの総復習					
	46						
	47						
	48						
	49						
	50						
	51						
	52						
	53						
	54						
	55						
	56						
	57						
	58						
59							
60							
評価方法							
評 価 基 準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
備考							

＜柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		柔整実技Ⅲ			学年	3
講師名		上野 天・石岡 茂樹		単位数	コマ数	45
授業概要、到達目標						
柔道整復学を活用し、模擬的に整復法や固定法、軟部組織損傷の評価法等の知識、技術を習得し、現場で対応できるようになる。 ※実務経験のある教員等による授業科目となる						
講 義 内 容	1	オリエンテーション、認定実技について				
	2	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）				
	3	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）				
	4	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）				
	5	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）				
	6	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）				
	7	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）				
	8	コーレス骨折の背臥位による屈曲整復法（診療ベッド）				
	9	コーレス骨折の背臥位による屈曲整復法（診療ベッド）				
	10	コーレス骨折の坐位による屈曲整復法（椅子）				
	11	コーレス骨折の坐位による屈曲整復法（椅子）				
	12	コーレス骨折の背臥位による牽引直圧整復法（診療ベッド）				
	13	コーレス骨折の背臥位による牽引直圧整復法（診療ベッド）				
	14	コーレス骨折の坐位による牽引直圧整復法（椅子）				
	15	コーレス骨折の坐位による牽引直圧整復法（椅子）				
	16	肩鎖関節上方脱臼の坐位による整復（診療ベッド）				
	17	肩鎖関節上方脱臼の坐位による整復（診療ベッド）				
	18	肩関節前方烏口下脱臼の背臥位による整復（診療ベッド）				
	19	肩関節前方烏口下脱臼の背臥位による整復（診療ベッド）				
	20	肘関節後方脱臼の背臥位による整復（診療ベッド）				
	21	肘関節後方脱臼の背臥位による整復（診療ベッド）				
	22	整復法総復習				
	23	定型的鎖骨骨折 固定				
	24	定型的鎖骨骨折 固定				
	25	上腕骨骨幹部骨折 固定				
	26	上腕骨骨幹部骨折 固定				
	27	コーレス骨折固定				
	28	コーレス骨折固定				
	29	肩鎖関節上方脱臼固定				
	30	肩鎖関節上方脱臼固定				
評価方法						
評 価 基 準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		柔整実技Ⅲ		学年	3
講師名				単位数	
				コマ数	45
授業概要、到達目標					
柔道整復学を活用し、模擬的に整復法や固定法、軟部組織損傷の評価法等の知識、技術を習得し、現場で対応できるようになる。					
講 義 内 容	31	肩関節前方脱臼固定			
	32	肩関節前方脱臼固定			
	33	肘関節後方脱臼固定			
	34	肘関節後方脱臼固定			
	35	第5指中手骨頸部骨折固定			
	36	第5指中手骨頸部骨折固定			
	37	下腿骨骨幹部骨折固定			
	38	下腿骨骨幹部骨折固定			
	39	肋骨骨折固定			
	40	肋骨骨折固定			
	41	手第2指PIP関節背側脱臼固定			
	42	手第2指PIP関節背側脱臼固定			
	43	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習			
	44	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習			
	45	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習			
	46				
	47				
	48				
	49				
	50				
	51				
	52				
	53				
	54				
	55				
	56				
	57				
	58				
	59				
	60				
評価方法					
評 価 基 準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

＜柔道整復師学科 シラバス＞

科目名	柔整実技Ⅳ			学年	3
講師名	上野 天	単位数	1	コマ数	23

授業概要、到達目標

柔道整復学を活用し、模擬的に整復法や固定法、軟部組織損傷の評価法等の知識、技術を習得し、現場で対応できるようになる。
※実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	オリエンテーション。認定実技の流れ説明
	2	腱板損傷評価法
	3	上腕二頭筋長頭腱損傷評価法
	4	ハムストリングス損傷評価法
	5	大腿四頭筋打撲評価法
	6	膝関節側副靱帯損傷評価法
	7	膝関節十字靱帯損傷評価法
	8	膝関節半月板損傷評価法
	9	下腿三頭筋損傷評価法
	10	足関節外側靱帯損傷評価法
	11	アキレス腱断裂評価法
	12	アキレス腱断裂 クラメル固定法
	13	足関節外側靱帯損傷 局所副子固定法
	14	膝関節内側側副靱帯損傷 Xサポートテープ固定法
	15	足関節外側靱帯損傷 バスケットウィーブテープ固定法
	16	足関節外側側副靱帯損傷 フィギュアエイト・ヒールロック固定法
	17	問診、誘導、評価（腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、ハムストリングス損傷）
	18	問診、誘導、評価（膝関節半月板・側副靱帯・十字靱帯損傷）
	19	問診、誘導、評価（大腿四頭筋打撲、下腿三頭筋損傷、足関節外側靱帯損傷）
	20	問診、誘導、固定（足関節外側側副靱帯損傷固定）
	21	問診、誘導、固定（アキレス腱断裂固定）
	22	問診、誘導、固定（膝関節側副靱帯損傷固定）
	23	評価～固定全般の復習
	24	
	25	
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	

評価方法			
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

単位認定